

コビトマングース

アニマルフォトグラファー
トラベルライター

平 岩 雅 代

マングースと聞いて「ハブと闘うイタチのような気の強い動物だね」と答える人が少なくありません。

実はマングースは、ジャコウネコ科マングース亜科に属しており、東アフリカには全部で6種類のマングースが暮らしています。その中でも、この写真のコビトマングースは、6種類のうちで最も小さく、ひと目でマングースとわかる姿をしています。

頭から尾までの長さが約40センチ、体重は300グラム前後。体の半分以上は尾の長さです。尖った鼻、丸い目、幅の広い耳、やや短い脚で、体色は赤味がかかった茶色に、灰色がかかった毛がまだらに混じっていますが、目立った模様らしいものはありません。

コビトマングースは、見通しのいいサバナや、古いアリ塚、岩のすき間、土中の穴などを巣にして、群れで住んでいます。

同じマングースでも、シママングースはよく引越し(移動)をしますが、コビトマングースは定住性が高く、ほとんど移動することはありません。

東アフリカの朝は、意外に冷え込みます。



写真1 体に比べて尾の長さが長い

探しに出かけてゆきます。

マングースがよく食べるのは、昆虫、トカゲ、ヘビ、鳥の卵やヒナなどですが、果実などを食べることもあります。大きな餌物の時は集団で襲い、倒してしまいます。

卵を食べる時には、木や岩に叩きつけて殻を割り、上手に中の黄身と白身を手に入れます。

コビトマングースは一夫一婦制を守る両親と、その子どもたちが群れの基本になり、数頭から10頭位で行動します。

ハイエナ、チーター、ワシやタカなどの猛禽類が天敵で、警戒する時は後肢で立ち上がり、周囲を見渡しますが、その姿はかわい

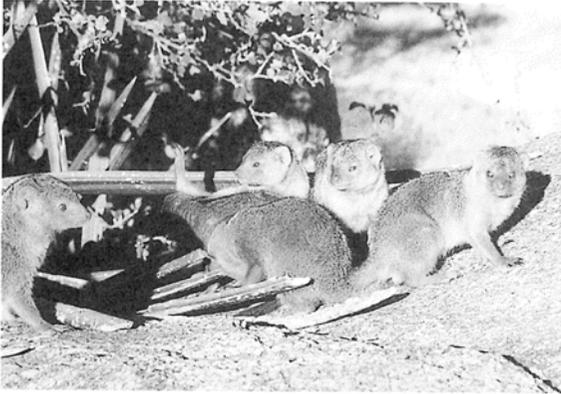


写真2 太陽の下、日光浴を楽しむ

いのひとことに尽きます。

行動様式は昼光性で、明るい時間帯に採取した餌をせっせと食べます。

タンザニアのセレンゲティ国立公園内に建つセロネラワイルドライフロッジは、大昔の噴火活動によって生まれた巨大な岩を建物の壁の一部に利用した、ユニークな宿泊施設ですが、このロッジにコビトマンガースの家族が住んでいます。

ロッジ玄関脇の庭に、直径 10 センチ前後の穴が無数にあいたアリ塚がありますが、実はここが彼らの家なのです。

外敵から身を守るのと、夜の冷気を避けるという二つの目的で、巣穴の奥にもぐり込んで眠っていたコビトマンガースたちは、東の空が明るくなり、太陽に大地が照らされる頃次々と穴から出てきます。

土の上や岩の上、草むらなど思い思いの場所で体を暖め、体温が上昇すると活動開始となるわけです。

コビトマンガースの妊娠期間は 50 日前後で、3~4 匹の子どもが生まれます。子どもたちの目が開くのは生後 2 週間ほどたってから。3~4 週間で離乳し、親たちと一緒に餌を食べるようになります。1 年程で性的には成熟しますが、繁殖行為を始め子育てをするようになるのは、親から独立して自分の群れを持つようになってからで、生後 3 年以上たってからだといわれています。

私もセロネラワイルドライフロッジを訪れるたびに、この小さな動物と出会うのを楽しみにしていますが、毎回必ず出会えるとは限りません。何しろ彼らはペットではなく、野生なのですから…。

●5 月 18 日発売の新刊『平岩父娘の 아프리카ポレポレツアール』（アートダイジェスト刊、定価 1890 円）ケニア・タンザニア訪問 200 回を今春 3 月に果たした平岩道夫氏と、長女雅代さんの豊富な体験に基づく意外なエピソードや、動物こぼれ話が迫力いっぱいのカラー写真とともに紹介されている。全国書店で好評発売中！主要国立公園のガイド、スワヒリ語単語も収録

〈コビトマンガースひとくちメモ〉

▶東アフリカ各国（ケニア、タンザニア、ウガンダなど）で話されている公用語のスワヒリ語で、コビトマンガースは「ンゲチロ・ムフピ」と呼ばれている。

▶野生のコビトマンガースの寿命は約

10年。

▶コビトマンガースの分布域は、北はソマリアから南は南アフリカまでの広い地域にまたがっている。